

充実した語法情報： 語法欄と Question Box

柏野健次



「語法に強いジーニアス」は高校生向けの英語学習辞典である『アクシスジーニアス英和辞典』（以降、AG）にも語法情報、Question Box という形で受け継がれている。

◆ Q&A コラム「Question Box」

『ジーニアス総合英語』で好評だった語法に関する Q&A のコラム「Question Box」（以降 QB）が AG でも設けられている。

『ジーニアス総合英語』では文法書という性質上、QB は構文などの一般的な情報が多く載せられているが、AG では、辞書という特性を生かして、特定の見出し語に関連した役に立つ語法情報を積極的に取り入れた。

QB 欄のテーマに関しては、とりわけ高校生がライティングやスピーキングのような発信の場面でも使えるような表現を項目として立てるように心がけた。

例えば、AG の best 項には、成句 do [try] one's best の解説に続いて、次のような QB 欄がある。

? Question Box

Q I'll do my best. は「最善[全力]を尽くします」「ベストを尽くします」という意味だと思っていましたが、そうではないのですか。

A 上にある通り、ふつうは「やるだけやってみます」という意味を表します。

I'll do my best. は「自信はないが、やるだけやってみる」というような話し手の気乗りのなさを表すのがふつうです。

・I'll do my best, but I can't promise anything. (やってみますが、(うまくいくかどうか)保証はできません)

・I'll do my best to be there on time, but I may be late. (そこには時間通りに行くようにはしますが遅れるかもしれません)

ただ、スポーツ・コンテスト・入学試験などのように競争相手がいる場合は、話し手は自ら進んでその行為を行なうことになるので、多くの場合、「最善[全力]を尽くします」「ベストを尽くします」という意味になります。

・“Hit a single, and we will win the game.”
“I'll do my best!” (「ヒットを打て。そしたら私たちの勝ちだ」「ベストを尽くします」)

[補足説明]

I'll do my best. は高校生が「最善[全力]を尽くします」「ベストを尽くします」の意味で使う可能性が十分あるが、英語の I'll do my best. と日本語の「最善[全力]を尽くします」「ベストを尽くします」では聞き手が受ける印象が異なるという点に注意すべきである。

ここから、コミュニケーションをする上でも十分注意しなければならない表現だと判断し、QB として取り上げた。[I'll do my best. については、『英語教育』2019年7月号 Question Box 欄の拙稿を参照]

また、willing 項には次のような QB 欄を設定した。

? Question Box

Q be willing to は「喜んで…する」という意味ではないのですか。

A 違います。「…してもかまわない」という意味を表します。

be willing to は、自分から積極的に何かをしたいという意味を表しません。特に反対する理由もないので同調する場合に「…してもかまわない」という意味で用いる表現です。強調する副詞の perfectly や quite をつけても、そのことは変わりません。

I'm (perfectly [quite]) willing to do that, but it may take several days. (それをしても別にかまわないけど数日かかりますよ)

「喜んで…する」の意味は be ready [glad] to で表します。glad の方が「喜んで」の気持ちが強くなります。

I'm ready [glad] to drive you into town any time you want to go. (あなたが行きたい時にいつでも車で町までお送りします)

ただし、willing が名詞を修飾する場合、また副詞形の willingly や名詞形の willingness は、「喜んで」という意味を表します。(→ willing ㉔ ㉕, willingly, willingness)

[補足説明]

be willing to は受験英語の必須の成句であるため、英作文などで「喜んで…する」の意味で be willing to を使ってしまうことも考えられるので、QB の項目の 1 つとして選んだ。

さらに、please 項には次のような QB 欄を取り込んだ。

Q Question Box

Q Come in. に please をつけて Please come in. とするとていねいな意味になると考えていいですか。

A 命令文に please をつけてもたいしてていねいな言い方にはなりません。

語法 (1) にあるように、命令文に please をつけてもソフトになるだけで、命令であることに変わりはありません。

なお、please よりも命令文をていねいにする語に動詞を強調する助動詞の do (→ do ㉔ ㉕) があります。この do は相手の行動を促すもので、Do come in. (♪) は「さあ、お入りなさい」というような意味になります。他に命令文につく語として just がありますが、これは状況によっては「いらいだち」を表すこともあるので、つけると逆にていねいさを欠きます。

命令文をていねいさの観点から順序づけすると、おおよそ次のようになります。

[ていねい] Do come in. → Please come in.
→ Come in. → Just come in. [ていねいでない]

[補足説明]

please の使い方は日本人には非常にわかりにくく、please をつけると、ていねいになると思っている人が多い。please は「最小限度のていねいさを表すマーカー」(a minimal marker of politeness) と言われていることからわかるように、please をつけても口調が少し柔らかくなるだけで、命令であることに変わりはない。

最後に ride 項と suffer 項に掲載した QB を紹介しておきたい。

これらでは上に紹介した 3 つの QB とは異なり、意味の観点からの類語比較が行われている。

Q Question Box

Q 授業で「私は 10 時に列車に乗った」という日本語を ×I rode the train at ten o'clock. と英訳したら、ALT に間違いだと言われました。なぜですか。

A ride は「ずっと乗っている」という意味を表す状態動詞だからです。

ride は状態動詞ですから I rode the train for one hour. (私は 1 時間列車に乗っていた) とは言えますが、「私は 10 時に列車に乗った」に ride は使えません。「乗り込む」という動作を表す get on を使って、I got on the train at ten o'clock. としなければなりません。

これと同じような状態動詞と動作動詞のペアとしては、wear(着ている)と put on(着る)があります。

・Put on your sweater because it is cold today. (今日は寒いからセーターを着なさい)

・She wore a green dress when she went out to the party. (彼女はパーティーに出かけた時、緑のドレスを着ていた) (→ put, wear)

[補足説明]

一般に、ride が状態動詞であることはあま

り知られていないように思う。上記後半部にあるように、他の状態動詞と動作動詞のペア（このほか、例えば belong（所属している）対 join（加入する）など）とセットにして教えれば効果が上がるのではないだろうか。

Question Box

Q 「病気などを患って苦しむ」という場合、suffer と suffer from は同じように使えますか。違うとすればどう違うのですか。

A 同じようには使えません。以下のような差異に注意しましょう。

suffer from は状態が継続する場合に使うのがふつうです。状態の継続には反復の場合も含まれます。

・He was *suffering* from pneumonia and had to stay in bed for several weeks. (彼は肺炎を患っていたので数週間寝ていないといけなかった)

・My grandmother *suffers* from headaches. (私の祖母は(繰り返し)頭痛に悩まされている)

suffer は突然の出来事を表す場合に使うのがふつうです。

・He *suffered* a heart attack and was taken to the hospital. (彼は心臓発作に見舞われ病院に運び込まれた)

・Tom *suffered* a broken leg in the accident. (トムは事故で足の骨を折った)

[補足説明]

suffer と suffer from の違いは大変わかりにくく、どちらを使ってもいいと思われがちだが、ride 項の QB 欄と同じように、状態、動作というアスペクト（相）の観点からの説明が効果的である。

◆語法欄の見直し

語法欄については、『ジーニアス英和辞典 第5版』（以降、G5）に盛り込まれていた語法情報のうち、高度と思われるものを AG のレベルに合うように取捨選択した。

その結果、非常にくだけた場面で使われるような表現や非標準的な表現など、高校生には教える

必要がないと思われるものは削除した。

例えば、G5の because 項には、接続詞用法の語義①c)の語法欄に次のような記述がある。

[Because 単独の文] くだけた言い方では、理由をはっきりと言いたくない時に because が単独で用いられることがある：“Why do you want to marry me?” “Because.” 「どうして私と結婚したいの?’」「どうしても」。

これは、大変くだけた言い方なので、高校生には不必要な情報と見なし、割愛した。ちなみに、実際の対話では、このあと “Because of what?” “Just because. Period.” (「どうしても何なの?’」「それだけ。以上」) などと続く。

また、G5には or 項の接続詞用法語義②の語法欄に次のような説明がある。

(1) 第3例 [= I’m not free on Monday, Tuesday, or Wednesday.] と同じ意味で or の代わりに and を使う人もいるが避けた方が無難。ただし、and に強勢を置き「月曜、火曜、水曜とも時間が取れるというわけではない」の意で用いるのは一般的。

(2) くだけた話し言葉では neither ... nor ... の形で neither ... or ... を使うことが多くなっているが、まだ標準語法として確立していない。

AG では、(1)で and を使うのは間違いであると割り切り、高校生には不必要な情報だと考えて削除した。

(2)も標準語法として確立していないものをわざわざ高校生に教える必要はないとの判断で載せないことにした。

以上のように、AG では高校生が使用する辞書という立場から、高校生に役に立つ語法情報を語法欄や QB 欄に積極的に取り込んだ。

語法に強い『ジーニアス英和辞典 初版』は昭和生まれであるが、AG はこの伝統を保持しつつ、令和の時代に即した新しいタイプの辞書を目指して編まれたものである。

(かしの けんじ・大阪樟蔭女子大学名誉教授)